

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	東京理科大学
設置者名	学校法人東京理科大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
理学部第一部	数学科	夜・通信	0	22	6	28	13	
	物理学科	夜・通信		22	12	34	13	
	化学科	夜・通信		22	37	59	13	
	応用数学科	夜・通信		22	21	43	13	
	応用物理学科	夜・通信		30	22	52	13	
	応用化学科	夜・通信		22	44	66	13	
理学部第二部	数学科	夜 [○] 通信		30	12	42	13	
	物理学科	夜 [○] 通信		30	30	60	13	
	化学科	夜 [○] 通信		30	20	50	13	
薬学部	薬学科	夜・通信		62	37	99	19	
	生命創薬科学科	夜・通信	62	4	66	13		
工学部	建築学科	夜・通信	20	57	77	13		
	建築学科 夜間主社会人 コース	夜 [○] 通信	20	65	85	13		
	工業化学科	夜・通信	20	18	38	13		
	電気工学科	夜・通信	20	45	65	13		

	情報工学科	夜・通信	20	19	39	13	
	機械工学科	夜・通信	20	20	40	13	
創域理工学部	数理科学科	夜・通信	32	0	32	13	
	先端物理学科	夜・通信	32	24	56	13	
	情報計算科学科	夜・通信	32	5	37	13	
	生命生物科学科	夜・通信	32	26	58	13	
	建築学科	夜・通信	32	22	54	13	
	先端化学科	夜・通信	32	19	51	13	
	電気電子情報工学科	夜・通信	32	42	74	13	
	経営システム工学科	夜・通信	32	15	47	13	
	機械航空宇宙工学科	夜・通信	32	28	60	13	
	社会基盤工学科	夜・通信	32	45	77	13	
	先進工学部	電子システム工学科	夜・通信	29	30	59	13
マテリアル創成工学科		夜・通信	29	22	51	13	
生命システム工学科		夜・通信	29	32	61	13	
物理工学科		夜・通信	29	4	33	13	
機能デザイン工学科		夜・通信	29	9	38	13	
経営学部	経営学科	夜・通信	26	48	74	13	
	ビジネスエコノミクス学科	夜・通信	26	16	42	13	
	国際デザイン経営学科	夜・通信	26	23	49	13	
(備考) 完成年度を超えていない学部等：先進工学部 物理工学科 先進工学部 機能デザイン工学科 経営学部 国際デザイン経営学科 募集停止しているが在学生がいる学部等：理学部第一部 応用物理学科							

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.tus.ac.jp/about/data/announcement/university/#qa9-open

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名：なし

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東京理科大学
設置者名	学校法人東京理科大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.tus.ac.jp/about/corporation/organization_chart/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	元 国立大学法人 特任教授	2022年1月1日～2026年3月31日	学長
非常勤	株式会社 代表取締役社長	2021年4月1日～2025年3月31日	企業での経験、知見を活かした学校法人運営への寄与
非常勤	株式会社 代表取締役社長	2021年4月1日～2025年3月31日	企業での経験、知見を活かした学校法人運営への寄与
非常勤	株式会社 取締役 専務執行役員	2021年4月1日～2025年3月31日	企業での経験、知見を活かした学校法人運営への寄与
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東京理科大学
設置者名	学校法人東京理科大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>※各学部において同様の取扱で実施。</p> <p>【授業計画書(シラバス)の作成過程】</p> <p>本学では、学生が自ら立てた学修目標に応じた的確な履修をする際の最も重要な資料としてシラバスを作成している。</p> <p>シラバスは全学統一のフォーマットを用いており、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準、実務経験等の項目を事前に明示している。これにより、学生の科目選択、履修計画のための情報を提供するとともに、学修の指針を提供することで、学生の学修の活性化、効果的な学修に寄与している。</p> <p>シラバスの作成にあたっては、「シラバス作成要項」を定め、シラバスの役割、利用法・作成上の注意・留意事項等を全授業担当教員に明示しており、以下の過程により作成している。</p> <p>① 学長から各授業担当教員宛の依頼 シラバス作成要項に基づきシラバスを作成するよう、学長から各学部長を経て各授業担当教員に依頼を行っている。</p> <p>② 各授業担当教員によるシラバス作成 上記①の依頼に基づき、各授業担当教員がシラバスを作成する。</p> <p>③ シラバスの内容の点検・検証 上記②で作成したシラバスの内容について、各学科内の教員間におけるピア・レビュー等により組織的に点検・検証を実施する。</p> <p>【シラバスの作成・公表時期】</p> <p>シラバスの作成・公表は概ね以下の時期に行っている。</p> <p>① 学長から各授業担当教員宛の依頼：12月～1月</p> <p>② 各授業担当教員によるシラバス作成：1月～3月(各学部により異なる)</p> <p>③ シラバスの内容の点検・検証：2月～3月(各学部により異なる)</p> <p>④ シラバスの公表：4月(授業実施期間開始前、WEB上で公表)</p>	
授業計画書の公表方法	※本学HPから参照可能。 https://www.tus.ac.jp/academics/degree/syllabus/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

※各学部において同様の取扱いで実施。

【単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施状況】

本学では、学修成果の評価について、本学学則第13条に定めるとおり、「授業科目を履修し、その試験等に基づく学修成果の評価が合格と判定された者に、当該授業科目所定の単位を与える」こととしている。

各授業科目においては、シラバスにおける「成績評価方法」、「学修成果の評価」の項目において、あらかじめ設定した成績評価の方法・基準*により、学修成果の評価を行っている。

※いずれも授業形態に応じて設定するが、各授業科目の成績評価基準は、全学で以下のとおり定める成績評価基準を基に設定する。

判定	表記		評価点数	評価基準
合格	秀	S	100～90	到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている
	優	A	89～80	到達目標を十分に達成している
	良	B	79～70	到達目標を達成している
	可	C	69～60	到達目標を最低限達成している
不合格	不可	D	59～0	到達目標を達成していない

成績評価方法の設定にあたっては、前述のシラバス作成要項に基づき留意点を設定するとともに、各学部において組織的に点検・検証を行うことで、その厳格性・適切性を担保している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

※各学部において同様の取扱いで実施。

【客観的な指標の設定・公表】

本学では、学生の学業成績を客観的かつ厳格に評価することにより、教育の質向上に資することを目的に、学部学生を対象に GPA を導入している。

GPA は、秀 (S) =4.0、優 (A) =3.0、良 (B) =2.0、可 (C) =1.0、不可 (D) =0 の表記に応じた Grade に分類され、Grade に基づき各年度で算出される GPA (年度 GPA) と在学中の全期間を通じて算出される GPA (累積 GPA) の 2 種類の GPA があり、以下の方法により算出している。

[年度 GPA の算出方法]

$$\text{年度 GPA} = \frac{\text{(当該年度において履修申告した対象授業科目の Gradex 当該授業科目の単位数) の総和}}{\text{対象授業科目のうち、当該年度において履修申告した対象授業科目の総単位数}}$$

[累積 GPA の算出方法]

$$\text{累積 GPA} = \frac{\text{(在学全期間において履修申告した対象授業科目の Gradex 当該授業科目の単位数) の総和}}{\text{対象授業科目のうち、在学全期間において履修申告した対象授業科目の総単位数}}$$

なお、GPA の算出対象とする授業科目 (対象授業科目) は、卒業所要単位数に算入する全ての授業科目としているが、「合格又は不合格のみにより評価する授業科目」等の一部の科目は例外として対象授業科目から除外する取扱いとしている。

また、これらの GPA の算出方法等は、本学教育 DX 推進センターHP で公表しているほか、算出した GPA は学園生活支援システム (CLASS) において自動計算のうえ、成績照会画面で当該学生に明示している。

【成績評価の適切な実施に係る取組】

成績評価について、各教員間の共通理解の下、組織的に厳格化や標準化を実現し、学生に対して成績評価における公平性や信頼性を確保することを目的に、秀 (S) ・優 (A) 評価の目安となる割合を設定した「成績評価の方針」を策定しており、シラバス作成要項等で全授業担当教員に明示している。

「成績評価の方針」の対象となる科目は、2018 年度から学生を対象に学園生活支援システム (CLASS) において成績評価 (S, A, B, C, D) の割合を明示しており、組織的な方針の下、各授業担当教員が成績評価の厳格化や標準化に向けた改善を図ることを促している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

https://www.tus.ac.jp/fd/kyojuhoho_shien/

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

※各学部において同様の取組で実施。

【卒業の認定に関する方針の策定・公表】

本学では、建学の精神、教育研究理念をはじめとした各種概念の下、どのような知識・能力を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針として、卒業認定・学位授与の方針を各課程、学部、学科において策定しており、本学 HP において公表している。

【適切な実施に係る取組の概要】

卒業認定について、卒業要件を本学学則第 16 条に「所定の期間（原則 4 年、薬学部薬学科のみ 6 年）在学」し、「所定の（各学部・学科が定める）卒業所要単位を修得」しなければならないと定めており、同要件を満たした者に対して学長が認定することとしている。

卒業認定・学位授与の方針も含めた 3 つの方針については、教育課程の不断の改革・改善に向けたサイクルの起点となるものであることから、その内容について定期的に検証・改善を行うための要項を策定し、2021 年度から同要項に基づく検証を開始している。

同要項では、「学修成果の評価に関する方針（アセスメント・ポリシー）」に基づく「学生の学修成果の達成状況」を以下のとおり検証し、検証結果に応じて 3 つの方針の見直しを適宜行うことを定めている。

なお、3 つの方針の見直しの際には、各概念の関係性に留意し、上位の概念から下位の概念への体系性を担保した形で見直しを行うこととしている。

① 各学部における検証（毎年度実施）

各学部は「学生の学修成果の達成状況」を各機構と連携して検証するとともに、検証結果を踏まえた改善結果（3 つの方針の見直しも含む）を各機構に報告する。

② 全学における検証（原則 3 年に 1 度実施）

大学全体の卒業認定・学位授与の方針が本学の教育に関する内部質保証のための PDCA サイクルの起点として機能しているかを確認するため、全学的に「学生の学修成果の達成状況」を検証する。

3 つの方針については、法令改正や本学の理念、目標等の上位概念の見直し、①、②の検証の結果（教育課程に変更がある場合）を踏まえて見直しを行う。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.tus.ac.jp/about/faculty/policy/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	東京理科大学
設置者名	学校法人東京理科大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.tus.ac.jp/about/data/project/settlement/
収支計算書又は損益計算書	https://www.tus.ac.jp/about/data/project/settlement/
財産目録	https://www.tus.ac.jp/about/data/project/settlement/
事業報告書	https://www.tus.ac.jp/about/data/project/business_plan/
監事による監査報告(書)	https://www.tus.ac.jp/about/data/project/settlement/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:学校法人東京理科大学事業計画書 対象年度:2023年度)
公表方法: https://www.tus.ac.jp/about/data/project/business_plan/
中長期計画(名称:①TUS VISION 150(長期ビジョン)、 ②中期計画2026(2022~2026年度) 対象年度:①2017~2031年度、②2022~2026年度)
公表方法: ① https://www.tus.ac.jp/tusvision150/ ② https://www.tus.ac.jp/about/features/plan2026/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.tus.ac.jp/about/data/guarantee/self_inspection/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.tus.ac.jp/about/data/guarantee/facility_assessment/ https://www.tus.ac.jp/about/data/guarantee/graduateschool_assessment/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名：理学部第一部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.tus.ac.jp/about/faculty/purpose/ ）
（概要） 人材育成に関する目的： 理学部第一部は、数学・物理・化学の基礎系 3 学科と応用数学・応用化学の応用系 2 学科から構成され、「理学の普及」という建学の精神のもと、自然界の普遍的真理を解明することを目指している。ますます発展・変動している社会情勢の中で、現代社会が求める新しい「科学技術の創成」へ向けて、「実力主義」に恥じない十分な基礎学力の上に高度な専門知識を身に付け、豊かな教養に裏打ちされた強い倫理観と豊かな人間性を持ち、確固とした信念と実力を備えた有為な人材を育成する。
卒業の認定に関する方針 （公表方法： https://www.tus.ac.jp/about/faculty/policy/ ）
（概要） 自然科学を体系的に理解し、高い専門性と倫理観、国際的な視野を持った人材の養成を目標とし、以下の知識、能力等を身に付け、各学科が定める所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学士（理学）の学位を授与する。 1. 真に豊かな社会の実現のため、自然科学に限らず、人文科学、社会科学などの豊かな教養を修得し、強い倫理観と豊かな人間性を身に付け、専門分野の枠を超えて横断的にものごとを俯瞰できる能力。 2. 数学・物理・化学を中心とする自然科学の十分な基礎学力と、その上に立つ高度な専門知識。 3. 修得した専門知識や教養をもとに、自ら課題を発見し、解決する能力。 4. 修得した専門知識や教養をもとに、論理的・批判的に思考し、積極的な姿勢で判断し、行動する能力。 5. 修得した専門知識や教養をもとに、他者とコミュニケーションをとりながら、国際的な視野を持って、基礎学力を基盤として柔軟に応用展開できる能力。 6. 修得した専門知識や教養をもとに、専門分野に応じたキャリアを形成し、自己を管理する能力。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： https://www.tus.ac.jp/about/faculty/policy/ ）
（概要） 1. 自然科学分野では、森羅万象に対する理解度の深化とともに、学問分野の拡大と多様化が進展し、社会が求める人材も多様化し、教育すべき内容は増大の一途をたどっている。現実から抽象まで（数学）、素粒子から宇宙まで（物理）、環境から生命まで（化学）、と教育対象が広がる中、「多様化」をキーワードに以下の方針で学士の教育課程を編成する。 2. 真に実力を身に付けた学生のみを卒業させる「実力主義」の伝統を堅持し、厳格な教育課程を実践する。 3. 段階的な知識の修得を図るため、一般的素養を深めるための「一般教養科目」、各専門分野の基盤をなす「基礎科目」、各専門分野に応じた進路に必要な能力を養うための「専門科目」の 3 種類の授業科目を体系的に配置する。 4. 「一般教養科目」「基礎科目」「専門科目」では、国際性、コミュニケーション能力、課題発見・解決力、論理的・批判的思考力、キャリア形成力、倫理観を養う内容を含む科目を配置する。

5. 「一般教養科目」では、専門分野だけに偏ることなく、人間と自然のための科学技術の創造と調和を実現するため、広く深い知識や教養、豊かな人間性や倫理観、判断力・行動力を醸成する科目などの教育課程を編成する。
6. 英語については、短期・長期の留学プログラムを用意するとともに、ネイティブスピーカーが担当する授業を開講するなど、学生の習熟度に応じて多様な授業形態で編成し、学習効果を高める主体的な学びを導く教育を行う。
7. 学士課程前期においては、高校までの教育課程及び入学者選抜方法の多様化に配慮したうえで、専門分野の履修に無理なく進むことができるよう、「基幹基礎科目」、「専門基礎科目」などの「基礎科目」を中心に多様な科目を編成する。
8. 学士課程後期においては、多様かつ多数の「専門科目（選択）」を確保し、教育すべき内容の増大および社会の多様な要求に対応する。
9. 学士課程の集大成として、最終学年次に卒業研究またはこれに代わる有為な人材育成のための科目を配置する。
10. 他学部や大学院で開講されている科目であっても積極的に履修を認め、学生が幅広い学習機会を持てるようにする。
11. 優秀な教員を養成するため、きめ細かな教職課程を編成する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.tus.ac.jp/about/faculty/policy/>)

(概要)

建学の精神と実力主義の伝統に基づき、理学部第一部の基本理念のもと、

1. 高等学校までに習得しておくべき英語、数学などの基礎知識が習得されていること
2. 数学・物理・化学の各専門分野の基礎知識が十分に習得されていること
3. 思考力、判断力、表現力などが十分な水準にあることを多様な選抜方法により広く求める。

【入試形態ごとの入学者に求める能力と、その評価方法】

(A 方式入学試験)

幅広い科目に対する基礎知識と思考力、判断力を持つ人を、大学入学共通テストの得点を用いて選抜する。

(B 方式入学試験)

各学科の特性に見合う基礎知識とそれを応用する能力及び思考力、判断力を持つ人を、独自の学力試験（数学、英語、理科）の得点を用いて選抜する。

(C 方式入学試験)

理数系科目を中心に幅広い基礎知識と思考力、判断力を持つ人を、本学独自の学力試験（数学、または数学と理科）と大学入学共通テスト（国語、外国語）の得点を用いて選抜する。

(グローバル方式入学試験)

本学の特性に見合う基礎知識と思考力、判断力及びコミュニケーションスキルとしての英語力を持つ人を、本学独自の学力試験（数学、理科）と英語の資格・検定試験の成績を用いて選抜する。

(学校推薦型選抜（指定校制）)

高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人を、書類審査、面接、口頭試問により選抜する。

(帰国生入学者選抜、外国人留学生入学試験)

学問に対する姿勢や考え方、海外で身に付けた能力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人を、大学入学共通テストの成績、資格・検定試験の成績、小論文、面接等により選抜する。

(学校推薦型選抜（公募制）)

高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人で本学を第1志望とする人を、書類審査、小論文、面接、口頭試問により選抜する。

【入学試験における取り組み】

思考力・判断力・表現力等の評価を行うため、B方式入学試験において記述式問題、学校推薦型選抜(公募制)において小論文の出題を行っている。
総合的な英語力の評価を行うため、グローバル方式入学試験において英語の資格・検定試験の成績を活用している。

学部等名 理学部第二部

教育研究上の目的 (公表方法：<https://www.tus.ac.jp/about/faculty/purpose/>)

(概要)

人材育成に関する目的：

我が国は、科学技術の創造により国運の発展と国際貢献を目指しており、科学技術発展の基礎と成る理学は、益々その重要性を増していく。理学部第二部では、理念である本学創設以来の「理学の普及と実力主義」に向かって、理学部第一部と緊密に連携を取りながら、夜間の時間帯に十分な基礎学力の上に高度な専門知識を身に付け、豊かな教養に裏打ちされた強い倫理観と豊かな人間性を持った人材を育成する

卒業の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.tus.ac.jp/about/faculty/policy/>)

(概要)

実力主義を堅持し、優れた専門知識、倫理観、幅広い視野を持った、何事にも粘り強く取り組める理系人材の養成を目標とし、所定の期間在学し、以下の知識、能力を身に付け、各学科ごとに定める所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学士(理学)の学位を授与する。

1. 「一般教養科目」の履修により、社会、文化、環境等の観点から科学の役割と責任を論じることができ、国際的な広い視野と高い倫理観を身に付け、専門分野の枠を超えて横断的にものごとを俯瞰できる能力。
2. 「基礎科目」、「専門科目」の履修によって、理学に関する基礎的な知識と、その上に立つ専門知識。
3. 修得した専門知識や教養をもとに、根本的な問題に対峙した時に創造的な発想を得て問題を探求し、自律的に知的能力を発展させる能力。
4. 修得した専門分野や教養をもとに、他者とコミュニケーションをとり、国際的な視野を持って活躍できる能力。
5. これらの能力を統合的に実践する場として、各学科の卒業研究において、各々の最先端理学における研究を遂行し、論文等での発表を行う。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.tus.ac.jp/about/faculty/policy/>)

(概要)

1. 理学部第二部の理念は本学創設以来の「理学の普及と実力主義」であり、この理念に向かって、夜間の時間帯に「十分な基礎学力の上に高度な専門知識を身に付け、豊かな教養に裏打ちされた強い倫理観と豊かな人間性を持った人材の育成」を行い、各学科ごとに定める人材育成等に関する目的を実現するための学士の教育課程を編成する。
2. 真に実力を身に付けた学生のみを卒業させる「実力主義」の伝統を堅持し、厳格な教育課程を実践する。
3. 段階的な知識の修得を図るため、一般的素養を深めるための「一般教養科目」、各専門分野の基盤をなす「基礎科目」、各専門分野に応じた進路に必要な能力を養うための「専門科目」の3種類の授業科目を体系的に配置する。
4. 「一般教養科目」では、教員、研究者、企業人・公務員等様々な学生の進路に対応できるよう、多彩なカリキュラムと時間割を備え、グローバル化・ユニバーサ

ル化に対応できる幅広い教養を持つ人材を育成するとともに、緻密な論理的思考力を身に付け、情報の収集・発表の方法を学び、多様な価値観を持つ他者と協働で物事を進められるようになることを目標とする授業科目を配置する。

5. 英語教育においては、少人数クラスや習熟度別クラスを取り入れ、学習効果を高める主体的な学びを導く教育を行う。
6. 「基礎科目」では、「基幹基礎科目」、「専門基礎科目」、「関連専門基礎科目」を配置し、かつ、真に基礎的な実力のある学生のみが先端的な専門科目の履修ができるよう、1年次から2年次への進級に対して履修が不可欠な関門科目を配置する。
7. 「専門科目」では、講義の他に、多くの演習・実験で習得した能力をベースに、さらに専門知識を深化させ、併せて他の授業科目との関連や学問探求の方法を学び、問題発見・解決能力の育成を図る。
8. 「一般教養科目」、「基礎科目」、「専門科目」では、各専門分野に応じたキャリア教育、倫理観を養う内容を含む科目を配置する。
9. 学士課程の集大成として、最終年度に卒業研究を配置する。
10. 夜間学部の多様な学生層に対応するため、専門分野を超えて、幅広く関心のある科目を履修できるよう多彩な科目を用意するとともに、他学部、他学科間の履修も可能とし、学生の勉学意欲の向上を図り、多様な学習ニーズに応える教育課程とする。
11. 演習・実験科目では、理学に必要な能力の習熟に加え、レポートやプレゼンテーションを行い、自らの意見を正確に他者に伝える技術を培う。
12. 大学院科目の先行履修も可能とすることにより、勉学意欲の高い学生の要望にも答えられる形にする。
13. 教員を目指す学生のために、理学部第一部との授業相互乗り入れ制度も導入し、4年間で教職課程を履修できるカリキュラムを実施し、未来の教育者をバックアップするため、卒業後の再教育の場を提供する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.tus.ac.jp/about/faculty/policy/>)

(概要)

建学の精神と実力主義の伝統に基づく、本学の教育理念のもと、

1. 高等学校段階までの理学系に必要な基礎知識、思考力、判断力、表現力を備え、専門分野の学習に必要な学力を有する人。
2. 多様な価値観と目的意識を持つ幅広い年齢層の様々な学友とともに、勉学や生き方を学び、豊かで活気溢れる大学生活を送ることができる人。
3. 勉学と職業を両立させ、経済的に独立していく意欲があり、人間力・学士力、国内外で活躍できるコミュニケーション能力を積極的に身に付ける意思のある社会人。
4. 自らの考えを表現する力を備え、主体的に多様な人々と協働して学ぶ意欲のある人。

以上のような人物を下記の多様な選抜方法により広く求める。

【入試形態ごとの入学者に求める能力と、その評価方法】

(A 方式入学試験)

幅広い科目に対する基礎知識と思考力、判断力を持つ人を大学入学共通テストの得点を用いて選抜する。

(B 方式入学試験)

各学科の特性に見合う基礎知識と、それを応用する能力、思考力、判断力を持つ人を選抜する。

(学校推薦型選抜(指定校制)、学校推薦型選抜(公募制))

高等学校までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、理学を学ぶことに対して

の意欲が高く、夜間学部に入学者となる明確な目的意識を有する人を、書類審査、面接、口頭試問、小論文等により選抜する。

(社会人特別選抜入学・編入学試験)

社会人として得た多くの貴重な経験を有し、それに基づく判断力、思考力、学問に対する姿勢や考え方をもち、目的意識をもって自ら学ぶ意欲のある人を、書類審査、面接等により選抜する。

(帰国生入学者選抜)

海外の勉学環境で得た様々な経験や、国内の勉学環境では得られない様々な能力、意欲を有する人を、大学入学共通テストの成績、書類審査、面接等で選抜する。

(一般編入学試験)

これまでに打ち込んできた学問に真摯に向き合った結果、方針転換を考え、自分に合う学問として改めて理学を学びたくなった人や、数学・情報・理科の教員免許を取得して教員になりたい人で、勉学に対する強い意欲を持ち、夜間学部入学に関して明確な目的意識を持つ人を選抜する。

【入学試験における取り組み】

思考力・判断力・表現力等の評価を行うため、B方式入学試験において記述式問題、学校推薦型選抜(公募制)において小論文の出題を行っている。

学部等名 薬学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.tus.ac.jp/about/faculty/purpose/)
(概要) 人材育成に関する目的： 薬学部は、「医薬分子をとおして人類の健康を守る」志をもった優れた人材を育成することを基本理念とする。薬学科及び生命創薬科学科は、協同して、知性に富み、倫理観と豊かな人間性を備え、総合的な生命科学及び情報科学としての薬学を担い、基礎と臨床・公衆衛生の橋渡しに貢献し、人類の健康と疾病克服に尽力できる人材を育成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.tus.ac.jp/about/faculty/policy/)
(概要) 実力主義の伝統を堅持しつつ、高い専門性と倫理観、国際的な視野と「医薬分子をとおして人類の健康を守る」志をもった人材養成を目標とし、以下の知識、能力等を身に付け、学科ごとに定める所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、薬学科の卒業生には学士(薬学)、生命創薬科学科の卒業生には学士(薬科学)の学位を授与する。 1. 自然・人間・社会に係る幅広い教養を修得し、専門分野の枠を超えて横断的にものごとを俯瞰できる能力。 2. 医療、創薬、薬事行政等に携わる者として求められる倫理観。 3. 薬学分野に応じた基礎学力と、その上に立つ専門知識。 4. 薬学に関連する分野に関する知識と教養ならびに倫理観に基づき、自ら課題を発見し、解決する能力。 5. 修得した専門知識や教養をもとに、他者とコミュニケーションをとり、国際的な視野を持って活躍できる能力。 6. 修得した専門知識や教養をもとに、専門分野に応じたキャリアを形成し、自己を管理する能力。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.tus.ac.jp/about/faculty/policy/)

(概要)

1. 「医薬分子をとおして人類の健康を守る」志をもった優れた人材を育成するという教育研究理念に基づいて、学科ごとに定める人材育成に関する目的を実現するための学士の教育課程を編成する。
2. 本学の伝統である実力主義の教育方針に則り、2つの学科の緊密な連携のもと、総合的な生命科学及び情報科学としての薬学を担い、基礎と臨床・公衆衛生の橋渡しに貢献できる人材を育成するための厳格な教育課程を実践する。
3. 段階的な知識の修得を図るため、一般的素養を深めるための「一般教養科目」、薬学専門分野の基盤をなす「基礎科目」、各専門分野に応じた進路に必要な能力を養うための「専門科目」の3種類の授業科目を体系的に配置する。
4. 「一般教養科目」では、自然・人間・社会を幅広く俯瞰できる能力、論理的・批判的思考力、コミュニケーション能力、国際性、自己管理能力を養う授業科目を効果的に配置する。
5. 英語教育においては、少人数クラスや習熟度別クラスを取り入れ、学習効果を高める主体的な学びを導く教育を行う。
6. 「基礎科目」では、初年次より「基幹基礎科目」、「専門基礎科目」、「関連専門基礎科目」の授業科目を効果的に配置し、併せて学生が自ら学ぶ学修時間を確保し、基礎学力を強化した上で、「専門科目」との接続を図る。
7. 「専門科目」では、講義の他に、多くの実験、実習、演習等の授業科目を重点的かつ効果的に組み合わせることで薬学専門知識を深化させ、併せて他の授業科目との関連や学問探求の方法を学び、かつ人間性の陶冶と問題発見・解決能力の育成を図る。
8. 「一般教養科目」「基礎科目」「専門科目」では、薬学分野に応じたキャリア教育、倫理観を養う内容を含む科目を配置する。
9. 学士課程の集大成として、卒業研究を配置する。
10. 薬学という専門分野を超えて幅広く関心のある科目を履修できるよう、他学部・他学科間の履修しうる制度を設けることにより、幅広い視野と新しい分野への挑戦意欲をもった人材の育成を図る。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.tus.ac.jp/about/faculty/policy/>)

(概要)

建学の精神と実力主義の伝統に基づく、本学の教育研究理念のもと、

1. 高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力に加えて、人類の健康を守ることを通じて社会に貢献しようとする志を備え、専門分野の学習に必要な学力を持つ人。
 2. 薬学の発展を担うことを通じて、人類の健康保持と疾病の克服を実現するために、将来広く国内外で国際的な視野を持って活躍するための基礎的な素養を身に付けている人。
 3. 自らの考えを表現する力を備え、主体的に多様な人々と協働して学ぶ意欲のある人。
- を多様な選抜方法により広く求める。

【入試形態ごとの入学者に求める能力と、その評価方法】

(A 方式入学試験)

幅広い科目に対する基礎知識と思考力、判断力を持つ人を、大学入学共通テストの得点を用いて選抜する。

(B 方式入学試験)

各学科の特性に見合う基礎知識とそれを応用する能力及び思考力、判断力を持つ人を、独自の学力試験(数学、英語、理科)の得点を用いて選抜する。

(C 方式入学試験)

理数系科目を中心に幅広い基礎知識と思考力、判断力を持つ人を、本学独自の学力試験（数学、理科）と大学入学共通テスト（国語、外国語）の得点を用いて選抜する。
 （グローバル方式入学試験）
 本学の特性に見合う基礎知識と思考力、判断力及びコミュニケーションスキルとしての英語力を持つ人を、本学独自の学力試験（数学、理科）と英語の資格・検定試験の成績を用いて選抜する。
 （学校推薦型選抜（指定校制））
 高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人を、書類審査、面接、口頭試問により選抜する。
 （帰国生入学者選抜、外国人留学生入学試験）
 学問に対する姿勢や考え方、海外で身に付けた能力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人を、大学入学共通テストの成績、資格・検定試験の成績、小論文、面接等により選抜する。
 （学校推薦型選抜（公募制））
 高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人で本学を第1志望とする人を、書類審査、小論文、面接、口頭試問により選抜する。
【入学試験における取り組み】
 思考力・判断力・表現力等の評価を行うため、学校推薦型選抜(公募制)において小論文の出題を行っている。
 総合的な英語力の評価を行うため、グローバル方式入学試験において英語の資格・検定試験の成績を活用している。

学部等名 工学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.tus.ac.jp/about/faculty/purpose/ ）
（概要） 人材育成に関する目的： 工学部は、本学における人材育成の基本的な目的である「倫理観と豊かな人間性を備え、国際的視野を持った技術者の育成」に基づいて、建築学、工業化学、電気工学、情報工学、機械工学の各分野の研究者・技術者・設計者に求められる学識・技術・研究方法を修得し、学術的あるいは実務的課題を学際的な見地から自ら発見かつ解決する能力を有し、社会に対する良識と責任意識を持ち、文化の維持発展に寄与することのできる、指導力を持った人材を育成する。
卒業の認定に関する方針 （公表方法： https://www.tus.ac.jp/about/faculty/policy/ ）
（概要） 実力主義の伝統を堅持しつつ、高い専門性と倫理観、国際的な視野を持った工学分野の研究者・技術者・設計者等の養成を目標とし、以下の知識、能力を身に付け、学科ごとに定める所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 工学分野に必要な基礎学力と専門知識 2. 自然・人間・社会に係る幅広い教養を修得し、工学分野に限らず横断的にものごとを俯瞰する能力 3. 修得した専門知識や教養をもとに、自ら課題を発見し、解決する能力 4. 修得した専門知識や教養をもとに、論理的・批判的に思考し、積極的な姿勢で判断し、行動する能力 5. 修得した専門知識や教養をもとに、他者とコミュニケーションをとり、国際的な視野を持って活躍できる能力 6. 修得した専門知識や教養をもとに、専門分野に応じたキャリアを形成し、自己を管理する能力
教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.tus.ac.jp/about/faculty/policy/>)

(概要)

1. 建学の精神と、「自然・人間・社会とこれらの調和的発展のための科学と技術の創造」という教育研究理念に基づいて、工学部や各学科が定める「人材育成に関する目的」を実現するための学士（工学）の教育課程を編成する。
2. 真に実力を身に付けた学生のみを卒業させる「実力主義」の伝統を堅持し、厳格な教育課程を実践する。
3. 段階的な知識の修得を図るため、一般的素養を深めるための「一般教養科目」、工学分野における各専門分野の基盤をなす「基礎科目」、工学分野の研究者・技術者・設計者等に必要な能力を養うための「専門科目」の3種類の授業科目を体系的に配置する。
4. 工学分野で活躍するためのキャリア教育や、国際性、コミュニケーション能力、課題発見・解決力、論理的・批判的思考力、倫理観を養う内容を含む科目を配置する。
5. 「一般教養科目」では、自然・人間・社会を幅広く俯瞰する能力、判断力・行動力を養う授業科目を効果的に配置する。
6. 英語教育においては、状況に応じた柔軟なクラス編成を取り入れ、学習効果を高める主体的な学びを導く教育を行う。
7. 「基礎科目」では、初年次より「基幹基礎科目」、「専門基礎科目」、「関連専門基礎科目」の授業科目を効果的に配置し、併せて学生が自ら学ぶ学修時間を確保し、基礎学力を強化した上で、「専門科目」との接続を図る。
8. 「専門科目」では、講義の他に、多くの実験、実習、演習等の授業科目を重点的かつ効果的に組み合わせることで専門分野の知識と技術を高め、併せて他の授業科目との関連や学問探求の方法を学ぶ。
9. 学士課程の集大成として、最終学年次に卒業研究を実施する。
10. 自身の専門分野を超えて幅広く関心のある科目を履修できるよう、他学部・他学科の科目の履修や大学院科目の先行履修を可能とし、学生の学習意欲の向上を図り、多様な学習ニーズに応える教育課程とする。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.tus.ac.jp/about/faculty/policy/>)

(概要)

建学の精神と実力主義の伝統に基づく、本学の教育研究理念のもと、

1. 高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を備え、工学分野の学習に必要な学力を持つ人
 2. 将来広く国内外で国際的な視野を持って活躍するための基礎的な素養を身に付けている人
 3. 社会に対する良識と責任意識を持ち、主体的に多様な人々と協働して学ぶ意欲のある人
- を多様な選抜方法により広く求める。

【入試形態ごとの入学者に求める能力と、その評価方法】

(A 方式入学試験)

幅広い科目に対する基礎知識と思考力、判断力を持つ人を、大学入学共通テストの得点を用いて選抜する。

(B 方式入学試験)

各学科の特性に見合う基礎知識とそれを応用する能力及び思考力、判断力を持つ人を、独自の学力試験（数学、英語、理科）の得点を用いて選抜する。

(C 方式入学試験)

理数系科目を中心に幅広い基礎知識と思考力、判断力を持つ人を、本学独自の学力試験（数学、理科）と大学入学共通テスト（国語、外国語）の得点を用いて選抜する。

<p>(グローバル方式入学試験)</p> <p>本学の特性に見合う基礎知識と思考力、判断力及びコミュニケーションスキルとしての英語力を持つ人を、本学独自の学力試験(数学、理科)と英語の資格・検定試験の成績を用いて選抜する。</p> <p>(学校推薦型選抜(指定校制))</p> <p>高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人を、書類審査、面接、口頭試問により選抜する。</p> <p>(帰国生入学者選抜、外国人留学生入学試験)</p> <p>海外で身に付けた知識と能力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人を、書類審査、資格・検定試験の成績、面接等により選抜する。</p> <p>(学校推薦型選抜(公募制))</p> <p>高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人で本学を第1志望とする人を、書類審査、小論文、面接、口頭試問により選抜する。</p> <p>【入学試験における取り組み】</p> <p>思考力・判断力・表現力等の評価を行うため、B方式入学試験において記述式問題、学校推薦型選抜(公募制)において小論文の出題を行っている。</p> <p>総合的な英語力の評価を行うため、グローバル方式入学試験において英語の資格・検定試験の成績を活用している。</p>
--

<p>学部等名 創域理工学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.tus.ac.jp/about/faculty/purpose/)</p>
<p>(概要)</p> <p>人材育成に関する目的：</p> <p>創域理工学部は、事物の本質を探究しその知見を応用する理学系4学科と工学系6学科の教育・研究を展開し、一つの学問領域や学科だけで解決できない問題に対しては、その枠を超えて共創するとともに、分野横断的に俯瞰した国際的な視点から共に響き合うことにより科学と技術の新しい領域を創域し、新たな価値を創造することを理念としている。この理念のもと、豊かな教養に加え、理学及び工学の基礎力・応用力を備え、それらを駆使できる行動力を持った科学者、技術者及び教育者として、時代の要請に的確に対応できる人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.tus.ac.jp/about/faculty/policy/)</p>
<p>(概要)</p> <p>実力主義の伝統を堅持しつつ、高い専門性と倫理観、国際的な視野を持った理工系人材の養成を目標とし、以下の知識、能力等を身に付け、各学科に定める所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学士(理学)又は学士(工学)の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然・人間・社会に係る幅広い教養を修得し、専門分野の枠を超えて横断的にものごとを俯瞰できる能力。 2. 各学科の学問分野に応じた基礎学力と、その上に立つ専門知識。 3. 修得した専門知識や教養をもとに、自ら課題を発見し、解決する能力。 4. 修得した専門知識や教養をもとに、論理的・批判的に思考し、積極的に取り組むことのできる判断力・行動力。 5. 修得した専門知識や教養をもとに、他者とコミュニケーションをとり、国際的な視野を持って活躍できる能力。 6. 修得した専門知識や教養をもとに、専門分野に応じたキャリアを形成し、自己を管理する能力。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.tus.ac.jp/about/faculty/policy/)</p>

(概要)

1. 事物の本質を探究する理学とその知見を応用する工学の連携のもとに、自然・人間・社会に係る幅広い教養を加え、教育・研究を展開し、一つの学問領域や学科のみで解決できない問題に対しては、その枠を超えて共創するとともに、分野横断的に俯瞰した国際的な視点から共に響き合うことにより科学と技術の新しい領域を創出し、新たな価値を創造するという創域理工学部の基本理念に基づいて、学科ごとに定める人材育成に関する目的を実現するための学士の教育課程を編成する。
2. 真に実力を身に付けた学生のみを卒業させる「実力主義」の伝統を堅持し、厳格な教育課程を実践する。
3. 段階的な知識の修得を図るため、一般的素養を深めるための「一般教養科目」、各専門分野の基盤をなす「基礎科目」、各専門分野に応じた進路に必要な能力を養うための「専門科目」の3種類の授業科目を体系的に配置する。
4. 「一般教養科目」「基礎科目」「専門科目」では、国際性、コミュニケーション能力、課題発見・解決力、論理的・批判的思考力、キャリア形成力、倫理観を養う内容を含む科目を配置する。
5. 「一般教養科目」では、自然・人間・社会を幅広く俯瞰できる能力、判断力・行動力、自己管理能力を養う授業科目を効果的に配置する。
6. 英語教育においては、少人数クラスや習熟度を考慮したクラスを取り入れ、学習効果を高める主体的な学びを導く教育を行う。
7. 「基礎科目」では、初年次より「基幹基礎科目」、「専門基礎科目」、「関連専門基礎科目」の授業科目を効果的に配置し、併せて学生が自ら学ぶ学修時間を確保し、基礎学力を強化した上で、「専門科目」との接続を図る。
8. 「専門科目」では、講義の他に、多くの実験、実習、演習等の授業科目を重点的かつ効果的に組み合わせることで専門知識を深化させ、併せて他の授業科目との関連や学問探求の方法を学ぶ。
9. 学士課程の集大成として、最終学年次に卒業研究を配置する。
10. 理学と工学の分野にとらわれず、幅広く関心を持ち学修できるよう、他学部間・創域理工学部の他学科間の履修や大学院科目の先行履修を可能とし、学生の学習意欲の向上を図るとともに、多様な学習ニーズに応える教育課程とする。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.tus.ac.jp/about/faculty/policy/>)

(概要)

建学の精神と実力主義の伝統に基づく、創域理工学部の基本理念のもと、

1. 高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を備え、専門分野の学習に必要な学力を持つ人、
 2. 将来広く国内外で国際的な視野を持って活躍するための基礎的な素養を身に付けている人、
 3. 自らの考えを表現する力を備え、主体的に多様な人々と協働して学ぶ意欲のある人、
- を多様な選抜方法により広く求める。

【入試形態ごとの入学者に求める能力と、その評価方法】

(A 方式入学試験)

幅広い科目に対する基礎知識と思考力、判断力を持つ人を、大学入学共通テストの得点を用いて選抜する。

(B 方式入学試験)

各学科の特性に見合う基礎知識とそれを応用する能力及び思考力、判断力を持つ人を、独自の学力試験(数学、英語、理科)の得点を用いて選抜する。

(C 方式入学試験)

理数系科目を中心に幅広い基礎知識と思考力、判断力を持つ人を、本学独自の学力試験（数学、理科）と大学入学共通テスト（国語、外国語）の得点を用いて選抜する。

（グローバル方式入学試験）

本学の特性に見合う基礎知識と思考力、判断力及びコミュニケーションスキルとしての英語力を持つ人を、本学独自の学力試験（数学、理科）と英語の資格・検定試験の成績を用いて選抜する。

（S方式入学試験）

各学科の特性に見合う基礎知識とそれを応用する能力及び思考力、判断力を持ち、特定の専門分野に高い関心がある人を、学力試験(数学、英語、理科)の得点を用いて選抜する。

（学校推薦型選抜（指定校制））

高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人を、書類審査、面接、口頭試問により選抜する。

（学校推薦型選抜（公募制））

高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人で本学を第1志望とする人を、書類審査、小論文、面接、口頭試問により選抜する。

（帰国生入学者選抜、外国人留学生入学試験）

海外で身に付けた能力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人を、大学入学共通テストの成績、資格・検定試験の成績、小論文、面接等により選抜する。

【入学試験における取り組み】

思考力・判断力・表現力等の評価を行うため、B方式入学試験において記述式問題、学校推薦型選抜(公募制)において小論文の出題を行っている。

総合的な英語力の評価を行うため、グローバル方式入学試験において英語の資格・検定試験の成績を活用している。

学部等名 先進工学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.tus.ac.jp/about/faculty/purpose/ ）
（概要） 人材育成に関する目的： 先進工学部は、数学・物理学・化学・生物学等の基礎科学領域を「縦糸」、電子・材料・バイオ・機械・情報などの先進工学領域を「横糸」として、両者が有機的に織りなすことで創発する「学際イノベーションフィールド」において、現代社会の諸課題の解決に取り組むと共に、豊かな未来社会の創造に資する科学技術の未踏領域に挑むことを目的に、教育と研究の場を有機的にリンクし、その融合場において基礎学力と社会応用力に加え「デザイン思考」を修得し、現代科学・現代産業、未来科学・未来産業における革新を担う人材、そして世界を舞台に活躍することができる人材を育成する。
卒業の認定に関する方針 （公表方法： https://www.tus.ac.jp/about/faculty/policy/ ）
（概要） 先進工学部は、数学・物理学・化学・生物学等の基礎科学領域を「縦糸」、電子・材料・バイオ・機械・情報などの先進工学領域を「横糸」として、両者が有機的に織りなすことで創発する「学際イノベーションフィールド」において、現代社会の諸課題の解決に取り組むと共に、豊かな未来社会の創造に資する科学技術の未踏領域に挑むことをコンセプトに、教育と研究の場を有機的にリンクし、その融合場において基礎学力と社会応用力を備え、現代科学・現代産業、未来科学・未来産業における革新を担う人材、そして世界を舞台に活躍することができる人材を育成することを目的として、以下の知識、能力等を身につけ、各学科で定める所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。 1. 自然と人間、社会に対する幅広い教養を持ち、専門分野の枠を超えて横断的にも

<p>のごとを俯瞰できる能力</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 専門分野に捉われない幅広い基礎学力 3. 基礎学力を基盤とした発展性を有する専門知識 4. 習得した専門知識や教養をもとに、新しい視点から課題を発見し、解決する能力 5. 主体的に多様な人々と協働し、国際的視野を持って活躍できる能力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.tus.ac.jp/about/faculty/policy/)</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. すべての分野に必要な自然法則と学際的な領域での研究に必要な専門領域における高度で先進的な工学を学ぶ場であること、同時に社会的な課題に対する俯瞰力を養う確固たる洞察力を養う学びの場とすることを教育の特色とし、各学科で定める人材育成等に関する目的を実現するための学士の教育課程を編成する。 2. 段階的な知識の修得を図るため、人間的素養を深めるための「一般教養科目」、各専門分野の基盤をなす「基礎科目」、各専門分野の研究遂行に必要な能力を養うための「専門科目」の3種類の授業科目を体系的に配置する。 3. 「一般教養科目」では、自然・人間・社会を幅広く俯瞰できる能力、論理的・批判的思考力、国際性、自己管理能力を養う授業科目を効果的に配置する。 4. 英語教育では、習熟度別クラスにより、基礎能力からコミュニケーション能力に至る段階的な英語能力の習得を図る。 5. 「基礎科目」では、1学年次より授業科目を効果的に配置し、併せて学生が自ら学ぶ学修時間を確保し、基礎学力を強化したうえで、「専門科目」との接続を図る。 6. 「専門科目」では、講義の他に、実験、実習、演習等の授業科目を重点的かつ効果的に配置することで専門知識を深化させ、併せて他の授業科目との関係や学問探求の方法を学ぶことにより、専門分野の枠を超えた幅広い基礎知識と先端知識の習得と、新しい視点からの問題発見・解決能力の育成を図る。 7. 「一般教養科目」、「基礎科目」、「専門科目」では、専門分野に応じたキャリア教育、倫理観を養う内容を含む科目を配置する。 8. 学士課程の集大成として、最終学年次に卒業研究を配置する。 9. 専門分野の枠を超えて関心のある科目を履修できるよう、他学部・他学科の科目の履修や大学院科目の先行履修を可能とし、学生の学修意欲の向上を図ると共に、多様なニーズに応える教育課程とする。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.tus.ac.jp/about/faculty/policy/)</p>
<p>(概要)</p> <p>先進工学部は、建学の精神のもと「実力主義の実践を希求し、新たな領域を拓かんとする教育と研究」を実践する伝統と、研究室、学科の壁を透明化することによる「研究分野の壁を越えた教育と研究」を産業と社会に繋ぐ伝統を礎に、イノベーション創出を実践する場であることを研究の特色とし、また、すべての分野に必要な基礎科学と学際的な領域での研究に必要な専門領域における高度で先進的な工学を学ぶ場であり、同時に社会的な課題に対する俯瞰力を養う確固たる洞察力を養う学びの場とすることを教育の特色として、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 数学、理科に対して高い興味や関心を持ち、高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を備え、専門分野の学修に必要な学力を持つ人 2. 外国語に対して高い興味や関心を持ち、将来広く国内外で、国際的視野を持って活躍するために必要な素養を身に付けている人 3. 自らの考えを表現する力を備え、主体的に多様な人々と協働して学ぶ意欲のある人

を多様な選抜方法により広く求める。

【入試形態ごとの入学者に求める能力と、その評価方法】

(A 方式入学試験)

幅広い科目に対する基礎知識と思考力、判断力を持つ人を、大学入学共通テストの得点を用いて選抜する。

(B 方式入学試験)

数学、理科、外国語の基礎知識とそれを応用する能力および思考力、判断力を持つ人を、独自の学力試験（数学、英語および理科）の得点を用いて選抜する。

(C 方式入学試験)

理数系科目を中心に幅広い基礎知識と思考力、判断力を持つ人を、本学独自の学力試験（数学および理科）と大学入学共通テスト（国語および外国語）の得点を用いて選抜する。

(グローバル方式入学試験)

基礎知識と思考力、判断力及びコミュニケーションスキルとしての英語力を持つ人を、本学独自の学力試験（数学および理科）と英語の資格・検定試験の成績を用いて選抜する。

(学校推薦型選抜（指定校制）)

高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、専門分野の枠に捉われずに広く自ら学ぶ意欲のある人を書類審査、面接、口頭試問により選抜する。

(帰国生入学者選抜、外国人留学生入学試験)

海外で身に付けた能力を持ち、専門分野の枠に捉われずに広く自ら学ぶ意欲のある人を大学入学共通テストの成績、資格・検定試験の成績、小論文、面接等により選抜する。

(学校推薦型選抜（公募制）)

高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、専門分野の枠に捉われずに広く自ら学ぶ意欲のある人を、書類審査、小論文、面接、口頭試問により選抜する。

【入学試験における取り組み】

思考力・判断力・表現力等の評価を行うため、B方式入学試験において記述式問題、学校推薦型選抜(公募制)において小論文の出題を行っている。

総合的な英語力の評価を行うため、グローバル方式入学試験において英語の資格・検定試験の成績を活用している。

学部等名 経営学部

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.tus.ac.jp/about/faculty/purpose/>）

（概要）

人材育成に関する目的：

経営学部は、理学と工学の知識に基づき数理・数量的かつ実証的アプローチを積極的に活用し、文系・理系の枠組みを超えた新しい視点から経営の理論と技法のみならずグローバルな視点から幅広い価値観と経営・経済活動の実践感覚を教授するとともに、実用的な知識を教育することによって、科学的認識に基づき経営に関する合理的判断や意思決定を行うことができる有為な人材を育成する。

卒業の認定に関する方針

（公表方法：<https://www.tus.ac.jp/about/faculty/policy/>）

<p>(概要)</p> <p>実力主義の伝統を堅持しつつ、高い専門性と倫理観、国際的な視野を持った理系人材の養成を目標とし、以下の知識、能力等を身に付け、本学部の各学科の定める所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学士（経営学）の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル化や地球環境問題など広範かつ多様なビジネス環境で発生している諸々の問題に対して自然科学及び社会科学の知識を活用して解明するという基本の方針の下で理論的かつ実践的な考え方を身に付けている。 2. 経営学研究に必要な基礎学力を修得すると共に、各学科で設定された専門領域科目を包括的に学び、自ら設定したテーマに関して、専門知識を以って研究を完成できる能力を身に付けている。 3. 必要な単位を取得し、キャリア教育によって社会人としての意識、コミュニケーション力及び合理的に判断する力を備えている。 4. 自然・人間・社会に係る幅広い教養を修得し専門分野の枠を超えて横断的にものごとを俯瞰できる能力を身に付けている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.tus.ac.jp/about/faculty/policy/)</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」という建学の精神と、「自然・人間・社会とこれらの調和的発展のための科学と技術の創造」という教育研究理念に基づいて、経営学部の定める人材育成等に関する目的を実現するための学士の教育課程を編成する。 2. 真に実力を身に付けた学生のみを卒業させる「実力主義」の伝統を堅持し、厳格な教育課程を実践する。 3. 段階的な知識の修得を図るため、一般的素養を深めるための「一般教養科目」、各専門分野の基盤をなす「基礎科目」、各専門分野に応じた進路に必要な能力を養うための「専門科目」の3種類の授業科目を体系的に配置する。 4. 「一般教養科目」では、自然・人間・社会を幅広く俯瞰できる能力、論理的・批判的思考力、コミュニケーション能力、国際性、自己管理能力を養う授業科目を効果的に配置する。 5. 英語教育においては、少人数クラスや習熟度別クラスを取り入れ、学習効果を高める主体的な学びを導く教育を行う。 6. 「基礎科目」では、初年次より「基幹基礎科目」、「専門基礎科目」、「関連専門基礎科目」の授業科目を効果的に配置し、併せて学生が自ら学ぶ学修時間を確保し、基礎学力を強化した上で、「専門科目」との接続を図る。 7. 「専門科目」では、講義の他に、多くの実習、演習等の授業科目を重点的かつ効果的に組み合わせることで専門知識を深化させ、併せて他の授業科目との関連や学問探求の方法を学び、問題発見・解決能力の育成を図る。 8. 「一般教養科目」「基礎科目」「専門科目」では、各専門分野に応じたキャリア教育、倫理観を養う内容を含む科目を配置する。 9. 学士課程の集大成として、最終学年次に卒業研究を配置する。 10. 専門分野を超えて幅広く関心のある科目を履修できるよう、他学部・他学科間の履修や大学院科目の先行履修を可能とし、学生の学習意欲の向上を図り、多様な学習ニーズに応える教育課程とする。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.tus.ac.jp/about/faculty/policy/)</p>
<p>(概要)</p> <p>建学の精神と実力主義の伝統に基づく、本学の教育研究理念のもと、以下のような人材を多様な選抜方法により広く求める。入学試験では基礎的科目の知識を重視するが、これまで習得した科目や個々の背景の垣根を越え、自然及び社会現象に広い</p>

いは深い関心を持っていることや個性にも配慮する。

1. 高等学校段階までの学習内容を十分理解し、正しい倫理観と豊かな人間性を備え、自然・人間・社会とこれらの調和的発展のための創造的・知的活動に対して高い学習意欲を持った人。
2. 自立心旺盛で、将来広く国内外で活躍しようとする意欲のある人。国際的ビジネスリーダーの資質である英語でのコミュニケーション能力・人間力の習得にも関心を持つ人。
3. 自らの考えを表現する力を備え、主体的に多様な人々と協働して学ぶ意欲のある人。

【入試形態ごとの入学者に求める能力と、その評価方法】

(A 方式入学試験)

幅広い科目に対する基礎知識と思考力、判断力を持つ人を、大学入学共通テストの得点を用いて選抜する。

(B 方式入学試験)

各学科の特性に見合う基礎知識とそれを応用する能力及び思考力、判断力を持つ人を、独自の学力試験（経営学科：英語、国語、数学、ビジネスエクス学科：数学、英語、国語または数学のうちから1教科を選択、国際デザイン経営学科：英語、国語、数学）の得点を用いて選抜する。

(C 方式入学試験)

理数系科目を中心に幅広い基礎知識と思考力、判断力を持つ人を、本学独自の学力試験（数学、理科）と大学入学共通テスト（国語、外国語）の得点を用いて選抜する。

(グローバル方式入学試験)

学科の特性に見合う基礎知識と思考力、判断力及びコミュニケーションスキルとしての英語力を持つ人を、独自の学力試験（数学）と英語の資格・検定試験の成績を用いて選抜する。

(学校推薦型選抜（指定校制）)

高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人を、書類審査、面接、口頭試問により選抜する。

(帰国生入学者選抜、外国人留学生入学試験、国際バカロレア入学者選抜)

海外や国際バカロレア教育プログラムで身に付けた能力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人を、大学入学共通テストの成績、資格・検定試験の成績、書類審査、小論文、面接、口頭試問等により選抜する。

(学校推薦型選抜（公募制）)

高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人で本学を第1志望とする人を、書類審査、小論文、面接、口頭試問により選抜する。

【入学試験における取り組み】

思考力・判断力・表現力等の評価を行うため、B方式入学試験において記述式問題、学校推薦型選抜(公募制)において小論文の出題を行っている。

総合的な英語力の評価を行うため、グローバル方式入学試験において英語の資格・検定試験の成績を活用している。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：

<https://www.tus.ac.jp/about/data/announcement/pdf/info/foundation/pdf/sosiki.pdf>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	8人	—					8人
理学部	—	52人	25人	13人	38人	0人	128人
薬学部	—	27人	9人	7人	20人	0人	63人
工学部	—	39人	22人	4人	31人	0人	96人
創域理工学部	—	82人	39人	15人	58人	0人	194人
先進工学部	—	38人	19人	4人	23人	0人	84人
経営学部	—	21人	8人	10人	7人	0人	46人
教養教育研究院	—	41人	41人	19人	5人	0人	106人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			972人				972人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.tus.ac.jp/ridai/doc/ji/RIJIA01.php					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>本学におけるFDは、大学全体における取組（トップダウン型：教育DX推進センターが中心となり実施）と各部局における取組（ボトムアップ型）に大別され、それらが有機的に連携することで、組織的かつ多面的なFDの実施を実現している。</p> <p>【大学全体における取組例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FDセミナー 教授法・講義技術の修得、教育改善・質向上に係る最新のトピックに関連する知識修得等の機会として年3回程度開催 ・新任教員向けFDプログラム 新任教員が着任からの早期に「本学教員として教育を实践するうえで身に付けるべき項目」を修得することを目的に実施 ・新任教員研修 本学の教員としての役割や目指すべき教員像を認識するとともに、必要な知識やコミュニケーションスキルの基礎を修得し、教育内容の改善を図ることを目的に年1回開催 <p>【各部局における取組例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD研修として各部局で適宜開催 (「シラバス作成方法についてのFD」の実施を義務づけている) 							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
理学部第一部	585人	573人	97.9%	2,745人	2,751人	100.2%	0人	0人
理学部第二部	360人	402人	111.7%	1,440人	1,558人	108.2%	0人	0人
薬学部	200人	198人	99.0%	1,000人	958人	95.8%	0人	0人
工学部	550人	586人	106.5%	2,260人	2,341人	103.6%	20人	15人

創域理工学部	1,160人	1,352人	116.6%	4,880人	5,093人	104.4%	0人	0人
先進工学部	575人	626人	108.9%	1,655人	1,653人	99.9%	0人	0人
経営学部	480人	508人	105.8%	1,920人	1,981人	103.2%	0人	0人
合計	3,910人	4,245人	108.6%	15,900人	16,335人	102.7%	20人	15人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
理学部第一部	622人 (100.0%)	363人 (58.4%)	221人 (35.5%)	38人 (6.1%)
理学部第二部	291人 (100.0%)	95人 (32.6%)	152人 (52.2%)	44人 (15.1%)
薬学部	192人 (100.0%)	86人 (44.8%)	101人 (52.6%)	5人 (2.6%)
工学部	486人 (100.0%)	306人 (63.0%)	163人 (33.5%)	17人 (3.5%)
理工学部 (※)	1,139人 (100.0%)	679人 (59.6%)	419人 (36.8%)	41人 (3.6%)
先進工学部	321人 (100.0%)	231人 (72.0%)	81人 (25.2%)	9人 (2.8%)
経営学部	438人 (100.0%)	23人 (5.3%)	390人 (89.0%)	25人 (5.7%)
合計	3,489人 (100.0%)	1,783人 (51.1%)	1,527人 (43.8%)	179人 (5.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 主な進学先：東京理科大学大学院 主な就職先：NTTデータ、NECソリューションイノベータ				
(備考) (※) 2023年4月 理工学部から創域理工学部へ名称変更				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
理学部第一部	684人 100 (%)	565人 82.6 (%)	78人 11.4 (%)	41人 6.0 (%)	0人 0.0 (%)
理学部第二部	355人 100 (%)	209人 58.9 (%)	91人 25.6 (%)	55人 15.5 (%)	0人 0.0 (%)
薬学部	212人 100 (%)	169人 79.7 (%)	31人 14.6 (%)	12人 5.7 (%)	0人 0.0 (%)
工学部	521人 100 (%)	397人 76.2 (%)	99人 19.0 (%)	25人 4.8 (%)	0人 0.0 (%)
理工学部 (※)	1,196人 100 (%)	986人 82.4 (%)	166人 13.9 (%)	44人 3.7 (%)	0人 0.0 (%)
先進工学部 (※)	329人 100 (%)	290人 88.1 (%)	29人 8.8 (%)	10人 3.0 (%)	0人 0.0 (%)

経営学部	444人 100 (%)	397人 89.4 (%)	37人 8.3 (%)	9人 2.0 (%)	1人 0.2 (%)
合計	3,741人 100 (%)	3,013人 80.5 (%)	531人 14.2 (%)	196人 5.2 (%)	1人 0 (%)
(備考) ・ 2019年度(薬学部薬学科のみ 2017年度)入学者を対象。 ・ 転部科、編入学、再入学者は入学者数に含まない。 ・ 2019年度入学後に転部した者については、転部先に含める。 (※) 2021年4月 基礎工学部から先進工学部へ名称変更 (※) 2023年4月 理工学部から創域理工学部へ名称変更					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) ※各学部において同様の取扱いで実施。 【授業計画書(シラバス)の作成過程】 本学では、学生が自ら立てた学修目標に応じた的確な履修をする際の最も重要な資料としてシラバスを作成している。 シラバスは全学統一のフォーマットを用いており、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準、実務経験等の項目を事前に明示している。これにより、学生の科目選択、履修計画のための情報を提供するとともに、学修の指針を提供することで、学生の学修の活性化、効果的な学修に寄与している。 シラバスの作成にあたっては、「シラバス作成要項」を定め、シラバスの役割、利用法・作成上の注意・留意事項等を全授業担当教員に明示しており、以下の過程により作成している。 ① 学長から各授業担当教員宛の依頼 シラバス作成要項に基づきシラバスを作成するよう、学長から各学部長を経て各授業担当教員に依頼を行っている。 ② 各授業担当教員によるシラバス作成 上記①の依頼に基づき、各授業担当教員がシラバスを作成する。 ③ シラバスの内容の点検・検証 上記②で作成したシラバスの内容について、各学科内の教員間におけるピア・レビュー等により組織的に点検・検証を実施する。 【シラバスの作成・公表時期】 シラバスの作成・公表は概ね以下の時期に行っている。 ① 学長から各授業担当教員宛の依頼：12月～1月 ② 各授業担当教員によるシラバス作成：1月～3月(各学部により異なる) ③ シラバスの内容の点検・検証：2月～3月(各学部により異なる) ④ シラバスの公表：4月(授業実施期間開始前、WEB上で公表) 【授業計画書の公表方法】 ※本学HPから参照可能。 https://www.tus.ac.jp/academics/degree/syllabus/
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)
 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)
 ※各学部において同様の取扱で実施。
【単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施状況】
 本学では、学修成果の評価について、本学学則第 13 条に定めるとおり、「授業科目を履修し、その試験等に基づく学修成果の評価が合格と判定された者に、当該授業科目所定の単位を与える」こととしている。
 各授業科目においては、シラバスにおける「成績評価方法」、「学修成果の評価」の項目において、あらかじめ設定した成績評価の方法・基準*により、学修成果の評価を行っている。
 ※いずれも授業形態に応じて設定するが、各授業科目の成績評価基準は、全学で以下のとおり定める成績評価基準を基に設定する。

判定	表記		評価点数	評価基準
合格	秀	S	100～90	到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている
	優	A	89～80	到達目標を十分に達成している
	良	B	79～70	到達目標を達成している
	可	C	69～60	到達目標を最低限達成している
不合格	不可	D	59～0	到達目標を達成していない

成績評価方法の設定にあたっては、前述のシラバス作成要項に基づき留意点を設定するとともに、各学部において組織的に点検・検証を行うことで、その厳格性・適切性を担保している。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)
 ※各学部において同様の取扱で実施。
【客観的な指標の設定・公表】
 本学では、学生の学業成績を客観的かつ厳格に評価することにより、教育の質向上に資することを目的に、学部学生を対象に GPA を導入している。
 GPA は、秀 (S) =4.0、優 (A) =3.0、良 (B) =2.0、可 (C) =1.0、不可 (D) =0 の表記に応じた Grade に分類され、Grade に基づき各年度で算出される GPA (年度 GPA) と在学中の全期間を通じて算出される GPA (累積 GPA) の 2 種類の GPA があり、以下の方法により算出している。

[年度 GPA の算出方法]

$$\text{年度 GPA} = \frac{\text{(当該年度において履修申告した対象授業科目の Grade} \times \text{当該授業科目の単位数) の総和}}{\text{対象授業科目のうち、当該年度において履修申告した対象授業科目の総単位数}}$$

[累積 GPA の算出方法]

$$\text{累積 GPA} = \frac{\text{(在学全期間において履修申告した対象授業科目の Grade} \times \text{当該授業科目の単位数) の総和}}{\text{対象授業科目のうち、在学全期間において履修申告した対象授業科目の総単位数}}$$

なお、GPA の算出対象とする授業科目 (対象授業科目) は、卒業所要単位数に算入する全ての授業科目としているが、「合格又は不合格のみにより評価する授業科目」等の一部の科目は例外として対象授業科目から除外する取扱としている。
 また、これらの GPA の算出方法等は、本学教育 DX 推進センターHP で公表しているほか、算出した GPA は学園生活支援システム (CLASS) において自動計算のうえ、成績照会画面で当該学生に明示している。

【成績評価の適切な実施に係る取組】

成績評価について、各教員間の共通理解の下、組織的に厳格化や標準化を実現し、学生に対して成績評価における公平性や信頼性を確保することを目的に、秀(S)・優(A)評価の目安となる割合を設定した「成績評価の方針」を策定しており、シラバス作成要項等で全授業担当教員に明示している。

「成績評価の方針」の対象となる科目は、2018年度から学生を対象に学園生活支援システム(CLASS)において成績評価(S, A, B, C, D)の割合を明示しており、組織的な方針の下、各授業担当教員が成績評価の厳格化や標準化に向けた改善を図ることを促している。

【客観的な指標の算出方法の公表方法】

https://www.tus.ac.jp/fd/kyojuhoho_shien/

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

※各学部において同様の取扱で実施。

【卒業の認定に関する方針の策定・公表】

本学では、建学の精神、教育研究理念をはじめとした各種概念の下、どのような知識・能力を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針として、卒業認定・学位授与の方針を各課程、学部、学科において策定しており、本学HPにおいて公表している。

【適切な実施に係る取組の概要】

卒業認定について、卒業要件を本学学則第16条に「所定の期間(原則4年、薬学部薬学科のみ6年)在学」し、「所定の(各学部・学科が定める)卒業所要単位を修得」しなければならないと定めており、同要件を満たした者に対して学長が認定することとしている。

卒業認定・学位授与の方針も含めた3つの方針については、教育課程の不断の改革・改善に向けたサイクルの起点となるものであることから、その内容について定期的に検証・改善を行うための要項を策定し、2021年度から同要項に基づく検証を開始している。

同要項では、「学修成果の評価に関する方針(アセスメント・ポリシー)」に基づく「学生の学修成果の達成状況」を以下のとおり検証し、検証結果に応じて3つの方針の見直しを適宜行うことを定めている。

なお、3つの方針の見直しの際には、各概念の関係性に留意し、上位の概念から下位の概念への体系性を担保した形で見直しを行うこととしている。

①各学部における検証(毎年度実施)

各学部は「学生の学修成果の達成状況」を各機構と連携して検証するとともに、検証結果を踏まえた改善結果(3つの方針の見直しも含む)を各機構に報告する。

②全学における検証(原則3年に1度実施)

大学全体の卒業認定・学位授与の方針が本学の教育に関する内部質保証のためのPDCAサイクルの起点として機能しているかを確認するため、全学的に「学生の学修成果の達成状況」を検証する。

3つの方針については、法令改正や本学の理念、目標等の上位概念の見直し、①、②の検証の結果(教育課程に変更がある場合)を踏まえて見直しを行う。

【卒業の認定に関する方針の公表方法】

<https://www.tus.ac.jp/about/faculty/policy/>

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
理学部第一部	数学科	124 単位	有	49 単位
	物理学科	126 単位	有	49 単位

	化学科	124 単位	有	49 単位
	応用数学科	126 単位	有	49 単位
	応用物理学科	124 単位	有	49 単位
	応用化学科	124 単位	有	49 単位
理学部第二部	数学科	124 単位	有	49 単位
	物理学科	124 単位	有	49 単位
	化学科	124 単位	有	49 単位
薬学部	薬学科	197 単位	有	60 単位
	生命創薬科学科	135 単位	有	49 単位
工学部	建築学科	133 単位	有	49 単位
	建築学科 夜間主社会人コース	124 単位	有	49 単位
	工業化学科	126 単位	有	49 単位
	電気工学科	130 単位	有	49 単位
	情報工学科	128 単位	有	49 単位
	機械工学科	130 単位	有	49 単位
	創域理工学部	数理科学科	124 単位	有
	先端物理学科	126 単位	有	49 単位
	情報計算科学科	126 単位	有	49 単位
	生命生物科学科	128 単位	有	49 単位
	建築学科	128 単位	有	49 単位
	先端化学科	130 単位	有	49 単位
	電気電子情報工学科	130 単位	有	49 単位
	経営システム工学科	126 単位	有	49 単位
	機械航空宇宙工学科	130 単位	有	49 単位
	社会基盤工学科	124 単位	有	49 単位
先進工学部	電子システム工学科	126 単位	有	49 単位
	マテリアル創成工学科	129 単位	有	49 単位
	生命システム工学科	128 単位	有	49 単位
	物理工学科	128 単位	有	49 単位
	機能デザイン工学科	126 単位	有	49 単位
経営学部	経営学科	128 単位	有	49 単位
	ビジネスエコノミクス学科	128 単位	有	49 単位
	国際デザイン経営学科	128 単位	有	49 単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法： https://www.tus.ac.jp/fd/kyojuhoho_shien		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法： https://www.tus.ac.jp/fd/fd_activity/ ※教育 DX 推進センター活動報告書に、授業改善のためのアンケート集計結果、卒業予定者対象アンケート集計結果を公表。		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ホームページ

（情報公表 大学に関すること）

7 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境

キャンパス所在地、アクセスマップ、経路図、大学施設案内
<https://www.tus.ac.jp/about/data/announcement/university/>

(TUS LIFE 学生生活・就職)

キャンパス紹介 その他の設備・施設

<https://www.tus.ac.jp/tuslife/campus/facility/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
理学部第一部	数学科	965,000 円	300,000 円	① 330,000 円 ② 100,000 円	① 施設設備費 (学部により異なる) ② 休学在籍料 (1年) (前期又は後期の場合は 50,000 円)
	物理学科	1,015,000 円			
	化学科	1,030,000 円			
	応用数学科	965,000 円			
	応用化学科	1,030,000 円			
理学部第二部	数学科	600,000 円	150,000 円	① 160,000 円 ② 100,000 円	
	物理学科	649,000 円			
	化学科	660,000 円			
薬学部	薬学科	1,495,000 円		① 550,000 円 ② 100,000 円	
	生命創薬科学科	1,050,000 円			
工学部	建築学科 工業化学科 電気工学科 情報工学科 機械工学科	1,030,000 円			
創域理工学部	数理科学科	965,000 円	300,000 円	① 330,000 円 ② 100,000 円	
	先端物理学科	1,015,000 円			
	情報計算科学科	1,030,000 円			
	生命生物科学科	1,047,000 円			
	建築学科 先端化学科 電気電子情報工学科 経営システム工学科 機械航空宇宙工学科 社会基盤工学科	1,030,000 円			
	先進工学部	電子システム工学科 マテリアル創成工学科 生命システム工学科 物理工学科 機能デザイン工学科			1,030,000 円
		経営学部			経営学科
ビジネスエコノミクス学科					
		国際デザイン経営学科	780,000 円		

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要) 本学独自の給付型奨学金制度として以下の制度を設けている。</p> <p>(1) 新生のいぶき奨学金 優秀な学生が、経済的困窮を理由に進学を断念することのないよう、自宅からの通学が困難な学生を対象に経済的支援を行うことを目的とする奨学金制度。 ① 奨学金給付額 40万円~80万円 (年額・学部により異なる) ② 奨学金給付期間 4年間(薬学部薬学科は6年間)</p> <p>(2) 乾坤の真理奨学金(BS) 入学試験の成績が特に優秀である学生に対し、学業の伸長を奨励することを目的とする奨</p>

<p>学金制度。</p> <p>① 奨学金給付額 40万円~80万円 (年額・学部により異なる)</p> <p>② 奨学金給付期間 4年間(薬学部薬学科は6年間)</p> <p>(3)家計急変奨学金 家計支持者の死亡・解雇・事業の倒産・罹災等により家計が急変し、他の奨学金を以ってしても、経済的に修学が困難となり、かつ学業継続の意思のある者に対して奨学金を支給し、在学中の勉学が継続できることを目的とする奨学金制度。</p> <p>① 奨学金給付額 40万円~80万円 (年額・学部により異なる)</p> <p>(4)授業料等減免奨学金(新型コロナウイルス感染症対応) 新型コロナウイルス感染症拡大による影響により、特に困窮度合いが厳しく、学費の納入が極めて困難な者を対象に経済的支援を行うことを目的とする奨学金制度。</p> <p>① 奨学金給付額 30万円~80万円 (年額・学部により異なる)</p> <p>(5)維持会冠奨学金 本学への寄附金を原資とし、寄附者の意向を踏まえ、名等を冠して実施する奨学金制度。</p> <p>① 奨学金給付額 15万円~50万円 (年額・奨学金により異なる)</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要) 神楽坂、野田、葛飾の各キャンパスのキャリアセンターにおいて、企業・公務員・教員などの各種進路相談対応、情報提供、説明会、キャリア支援講座を実施している。進路相談対応のため神楽坂、野田、葛飾の各キャンパスにキャリアカウンセラーを配置して、エントリーシート添削、面接練習を行っている。公務員対策として、情報収集、試験対策、省庁業務説明会等を実施している。全学のキャリア支援施策については、「キャリア支援センター」をおき、支援方針を検討・策定している。各学科において、教員から就職指導を担当する幹事を1名選出し、学科学生に対する進路指導にあたっている。2022年度もWEBを活用した支援を実施した。さらに、学生が企業等とオンラインで面談する環境を充実させるため、各キャンパスの個別ブースを拡充した。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要) 傷病の初期診療を行うとともに、健康の保持増進を図ることを目的に保健管理センターを組織し、神楽坂、野田、葛飾の各キャンパスに「診療所」、北海道・長万部キャンパスに「保健室」を設置している。 また、将来の進路、心理相談・精神衛生相談、生活のことなどについて、専門のカウンセラーや精神科医が相談に応じる学生相談室(よろず相談室)を全キャンパスに設置し、併せて24時間対応可能な電話相談体制も整備し、プライバシーが保護された環境で、学生がいつでも相談できる環境を整えている。 さらに、学生個々の支援情報を教職員間で共有、活用することで、効率的、効果的、かつきめ細やかな学生支援を実現することを目的とする「学生カルテシステム」の導入を行っている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : <https://www.tus.ac.jp/about/data/announcement/university/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F113310103340
学校名	東京理科大学
設置者名	学校法人東京理科大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		667人	649人	-
内訳	第Ⅰ区分	399人	406人	
	第Ⅱ区分	180人	168人	
	第Ⅲ区分	88人	75人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				710人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	25人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)			
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	21人		
計	48人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	-	前半期		後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	—		
GPA等が下位4分の1	80人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	80人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。